



種
作

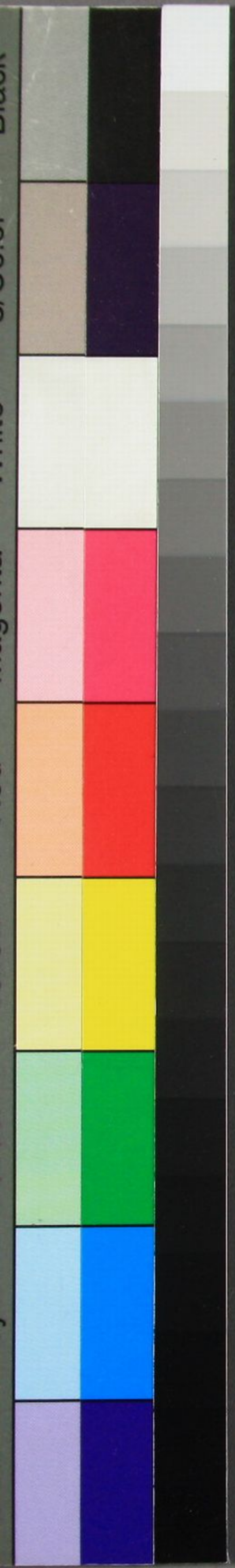
貞園
画

招源

夢

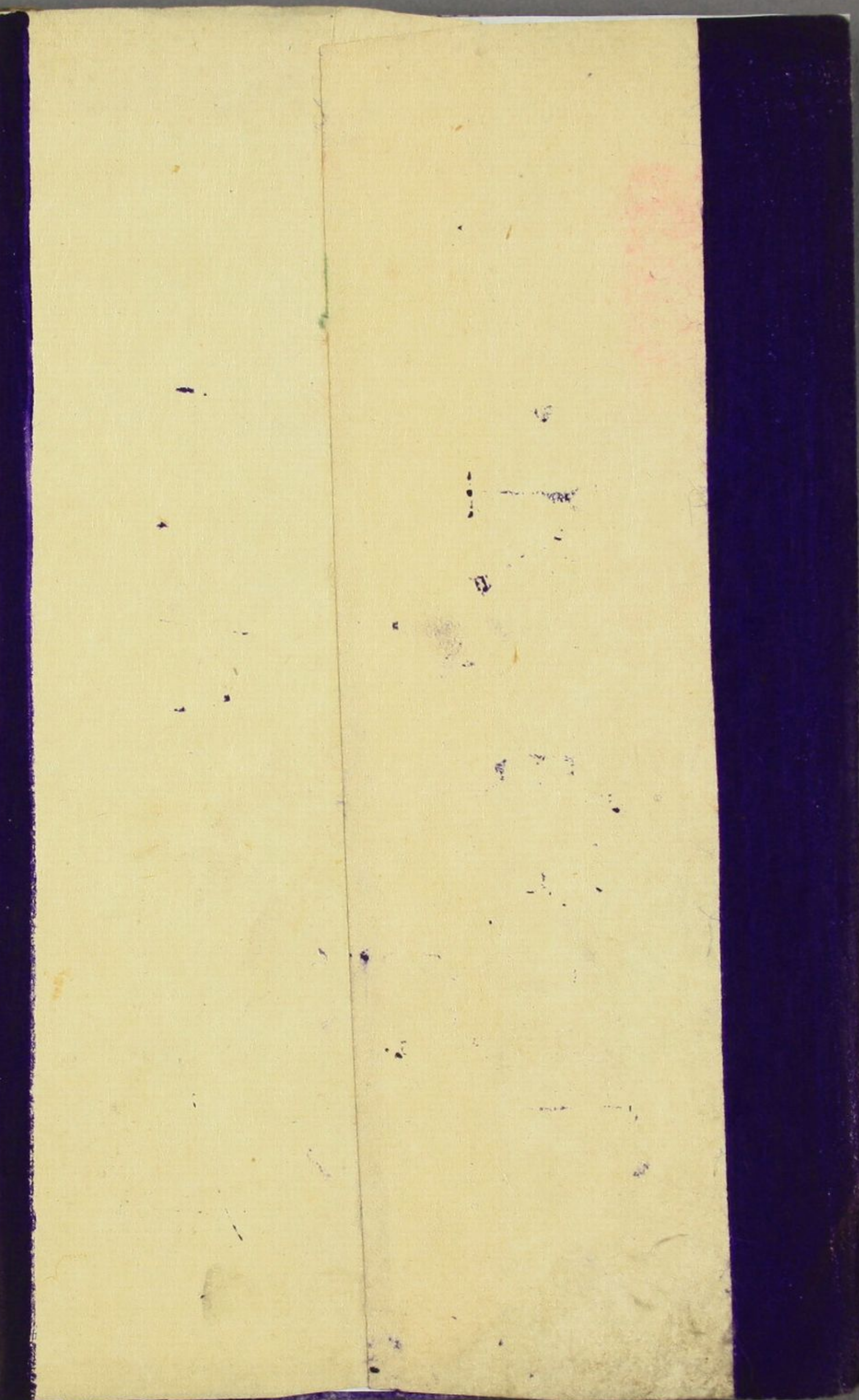
貞園

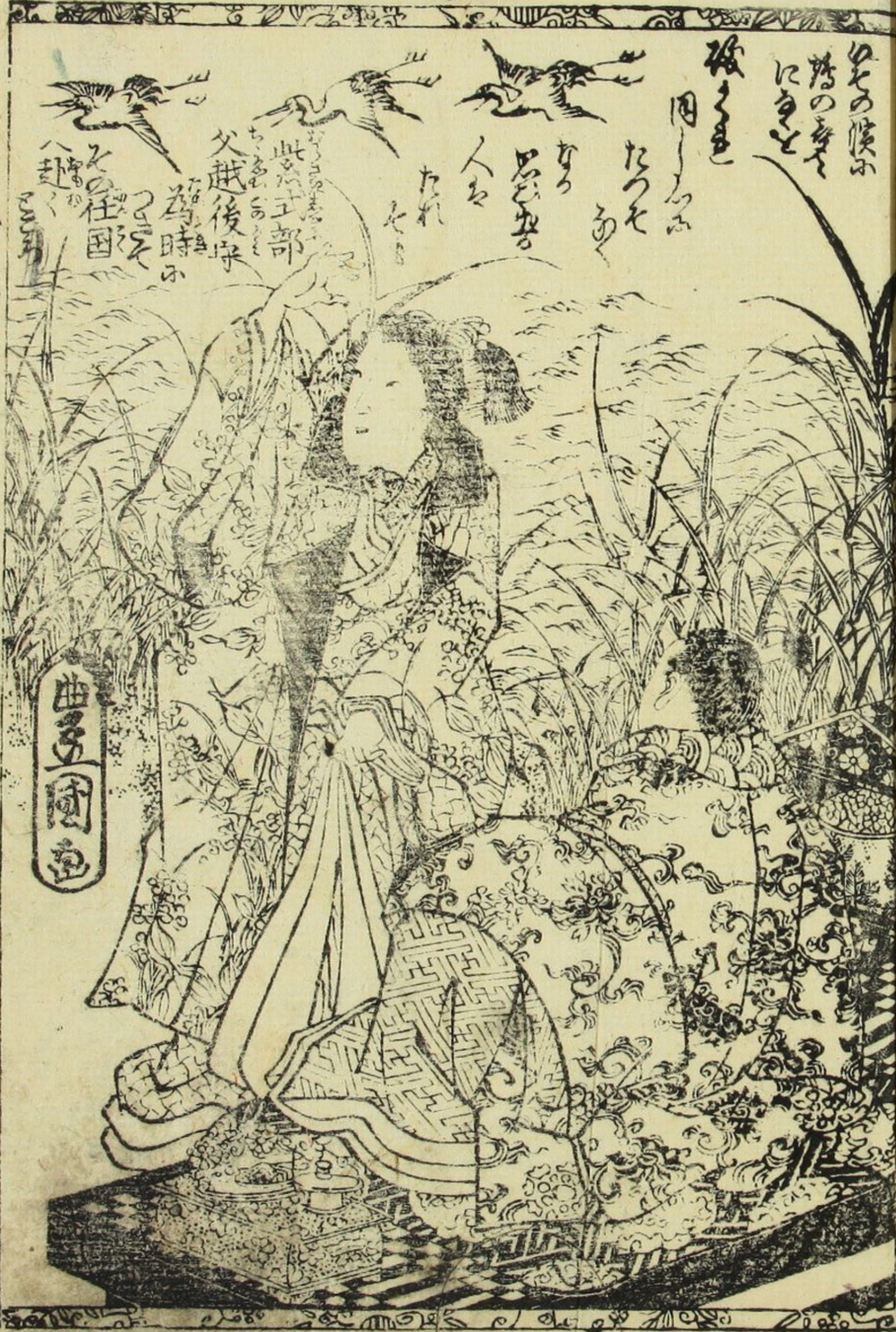
書
抄



根え
源げん
實み
紫むらさき

二
上の卷三





実世系二

曲多國志

此の頃の
落の身
に多と

用
たれ
人
思
たつて
あ

此の王部
父越後守
為時

八
之在國
赴

根源

實紫

上卷

笠亭仙果作
梅蝶樓國貞画



泉
喜
太

板





實世の實心多摘ハ此部ノ藤原為時女兄也
 文學ノ類故諸藝小達情ふく篤實温行の賢
 婦右衛門権佐宣孝の嫁一太貳三位越後弁の二女
 と産宣孝早物故に京極の家小寡居一後上東門
 院の中宮に侍より宮仕一白氏文集の樂府を教まわせた鳥の
 又そのもの日本紀局と倭名つられ又御堂殿の懸想一
 中は貞操正しく後家立を無事一生を送りて
 と善彈新糸と岩越と歸けりとの前にお鱈と給款と
 一と虚譚と石山と源氏と作初其語の罪也地獄に墮
 一と訓説とあるとこれ外外記とある一假令日記の本文を
 長く續くと主とこれ北人源氏と作けり種ありと思
 實統先第一の渡殿の事ありふ並び弘徽殿の御寵

遇失させたまふ前後の桐壺の更衣の准拠の必是と童蒙中の
 知世中ほりさの華序掛巻も可畏き
 華山法皇の御一代記二二帙及びある不栄花の浦の別須
 廢明石の面影あれ式部と宣孝の逸せ後又一二帙の伊周の流
 罪のわちも虚誕がら演義と次々作べ此編の画面ありて
 紫の本色と損したれと始終佛をつき守るとたも実事針の戯作
 のあるさふ似しと紫の同色とも四天の存て耶妻の輔と立者強
 盗のさふしと戯作の花ハテ花が用ねが實はるるぬふこと
 ○大蟹ののり日本紀畧載れと阿闍梨ののり以下皆根々話あり
 ○道兼主の鹿ののり砂石を余小出保浦の幻術又歳久の愛童奇童
 九のゆるんといふあともさるる空王言て実の女所の別と遊しと
 といふ心お家作とて花山小新羅殿母のあも栄花物語の本文

癸丑春



笠亭仙果識



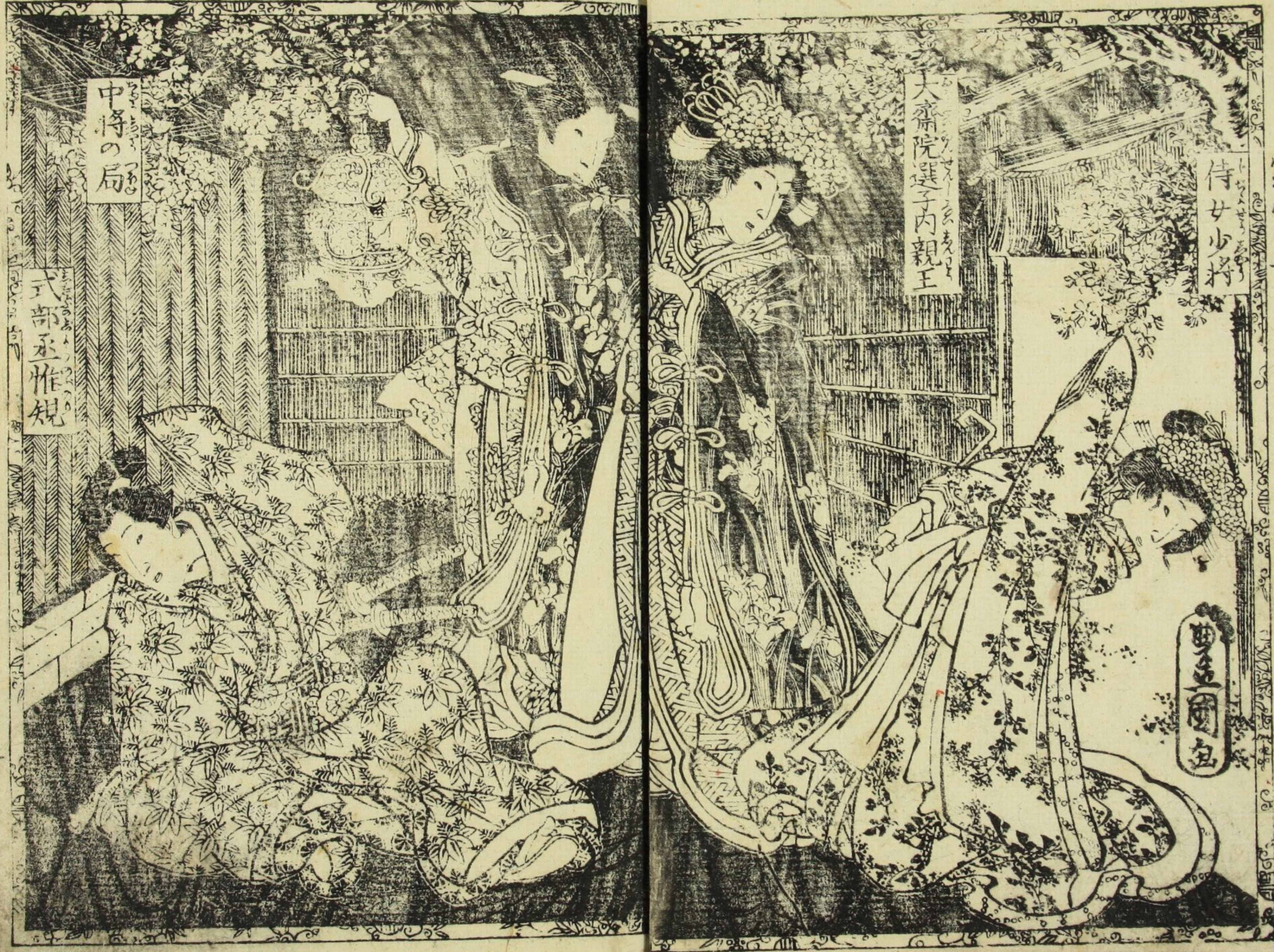
侍女少将

大齋院選子内親王

御衣

中将の局

式部丞惟規





新撰水

かきつけらるるもみぢの
よのゆくえんとまきらぬ
あつたれとりののりある
くわんをうさへくもつげ
なまると女がうたれま
つらうさるるもみぢ
もみぢはれが
あつたれとりののりある
くわんをうさへくもつげ
なまると女がうたれま
つらうさるるもみぢ
もみぢはれが



かきつけらるるもみぢの
よのゆくえんとまきらぬ
あつたれとりののりある
くわんをうさへくもつげ
なまると女がうたれま
つらうさるるもみぢ
もみぢはれが

かきつけらるるもみぢの
よのゆくえんとまきらぬ
あつたれとりののりある
くわんをうさへくもつげ
なまると女がうたれま
つらうさるるもみぢ
もみぢはれが

かきつけらるるもみぢの
よのゆくえんとまきらぬ
あつたれとりののりある
くわんをうさへくもつげ
なまると女がうたれま
つらうさるるもみぢ
もみぢはれが

○そのころだのいふ中ついで
このやうなうたうも
かゝるやうなうたうも
ねとまゝにうたうも
またまゝにうたうも
けいごつて人ゆふたう
のうたうのうたう
みんごのうたうのうたう
たうのうたうのうたう
たうのうたうのうたう
たうのうたうのうたう
たうのうたうのうたう
たうのうたうのうたう
たうのうたうのうたう



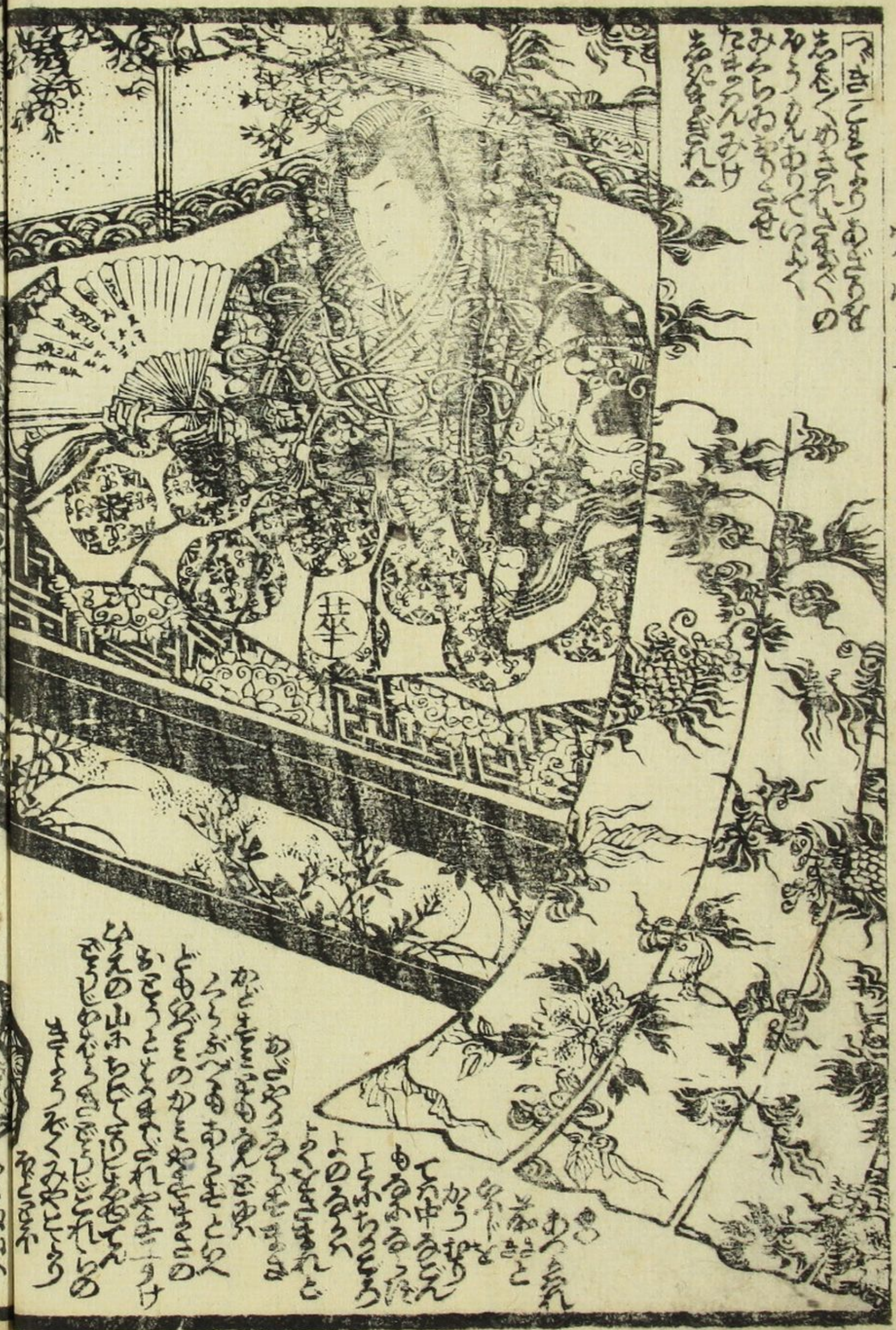
○そのころだのいふ中ついで
このやうなうたうも
かゝるやうなうたうも
ねとまゝにうたうも
またまゝにうたうも
けいごつて人ゆふたう
のうたうのうたう
みんごのうたうのうたう
たうのうたうのうたう
たうのうたうのうたう
たうのうたうのうたう
たうのうたうのうたう
たうのうたうのうたう
たうのうたうのうたう
たうのうたうのうたう



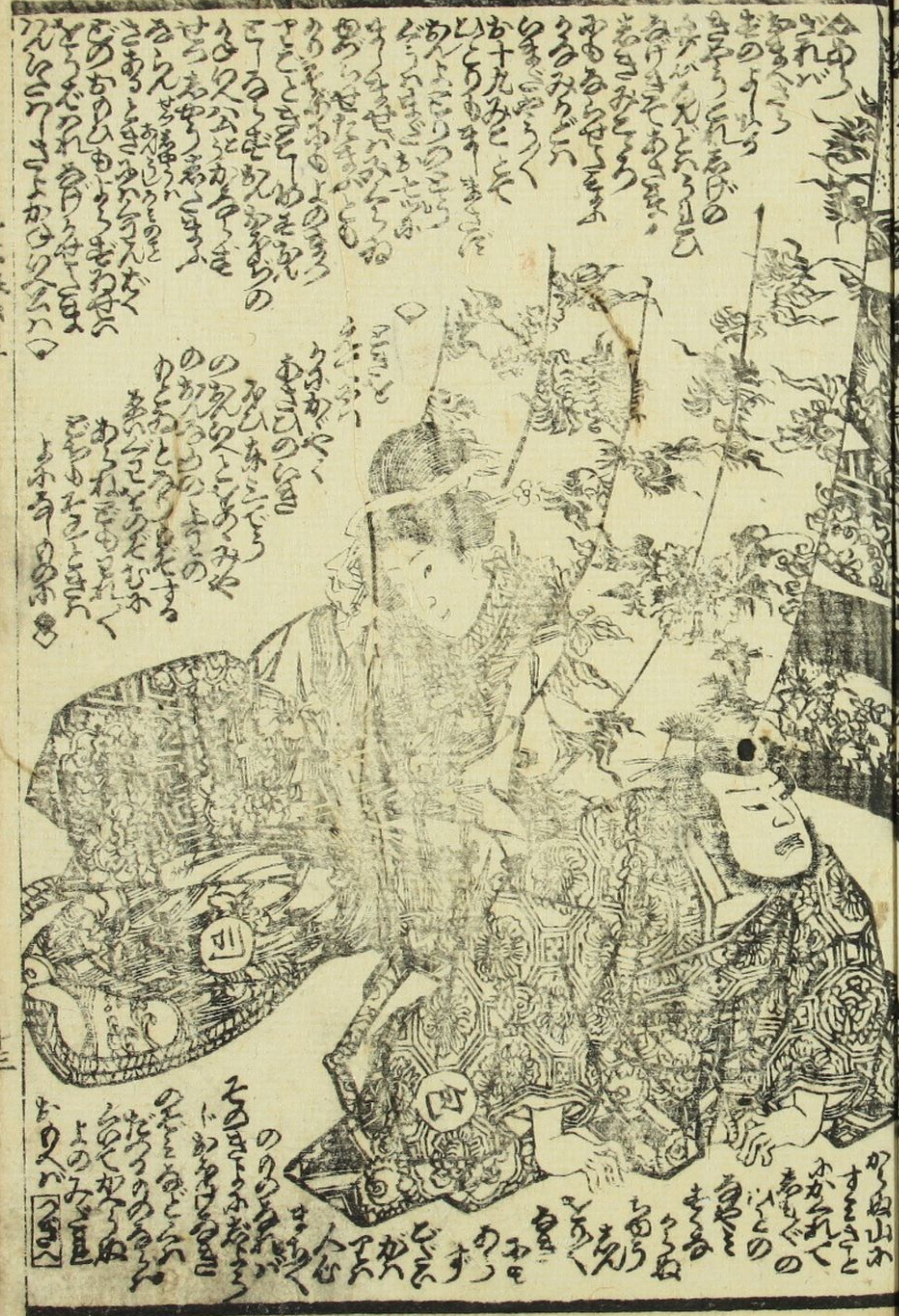
○そのころだのいふ中ついで
このやうなうたうも
かゝるやうなうたうも
ねとまゝにうたうも
またまゝにうたうも
けいごつて人ゆふたう
のうたうのうたう
みんごのうたうのうたう
たうのうたうのうたう
たうのうたうのうたう
たうのうたうのうたう
たうのうたうのうたう
たうのうたうのうたう
たうのうたうのうたう
たうのうたうのうたう

○そのころだのいふ中ついで
このやうなうたうも
かゝるやうなうたうも
ねとまゝにうたうも
またまゝにうたうも
けいごつて人ゆふたう
のうたうのうたう
みんごのうたうのうたう
たうのうたうのうたう
たうのうたうのうたう
たうのうたうのうたう
たうのうたうのうたう
たうのうたうのうたう
たうのうたうのうたう
たうのうたうのうたう

此の山に...
あまのこ...
みちの...
なまの...



あまのこ...
みちの...
なまの...
あまのこ...
みちの...
なまの...



あまのこ...
みちの...
なまの...
あまのこ...
みちの...
なまの...

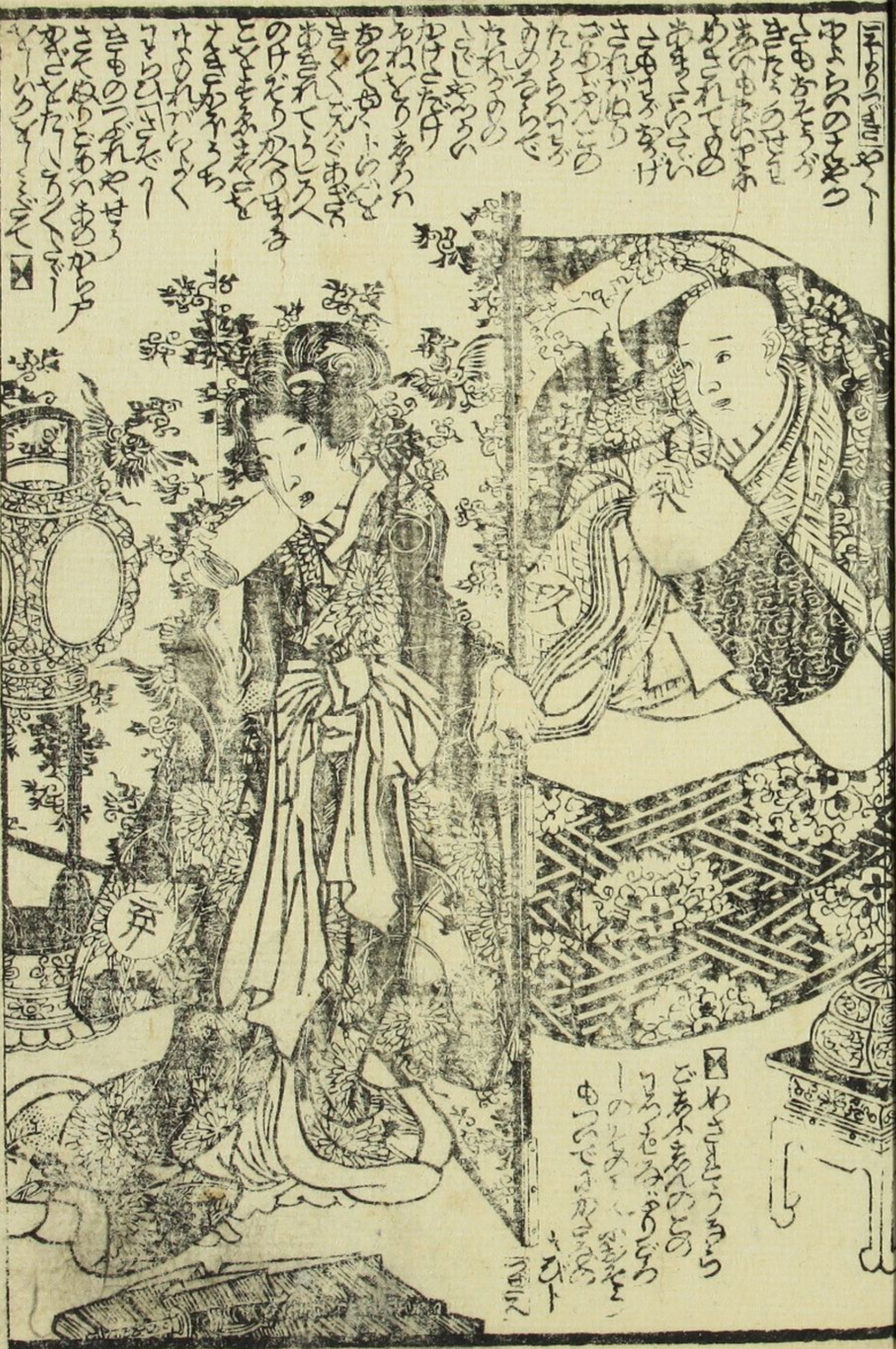
あまのこ...
みちの...
なまの...
あまのこ...
みちの...
なまの...

あまのこ...
みちの...
なまの...
あまのこ...
みちの...
なまの...

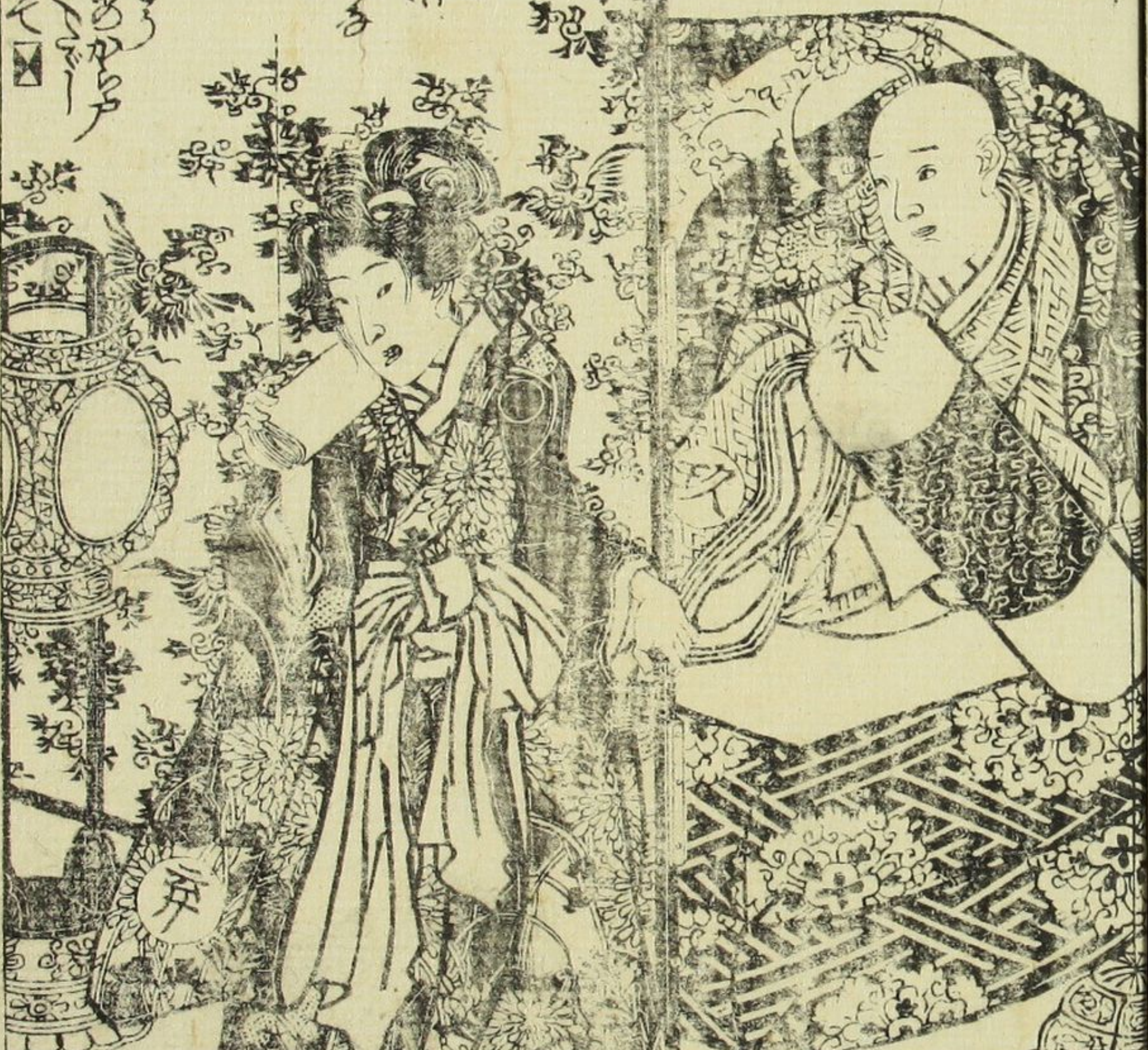
Handwritten text in a cursive script, likely a transcription of a Japanese text, located at the top of the right page.

Handwritten text in a cursive script, located in the middle section of the right page.

Handwritten text in a cursive script, located at the bottom section of the right page.



Handwritten text in a cursive script, located at the top of the left page.



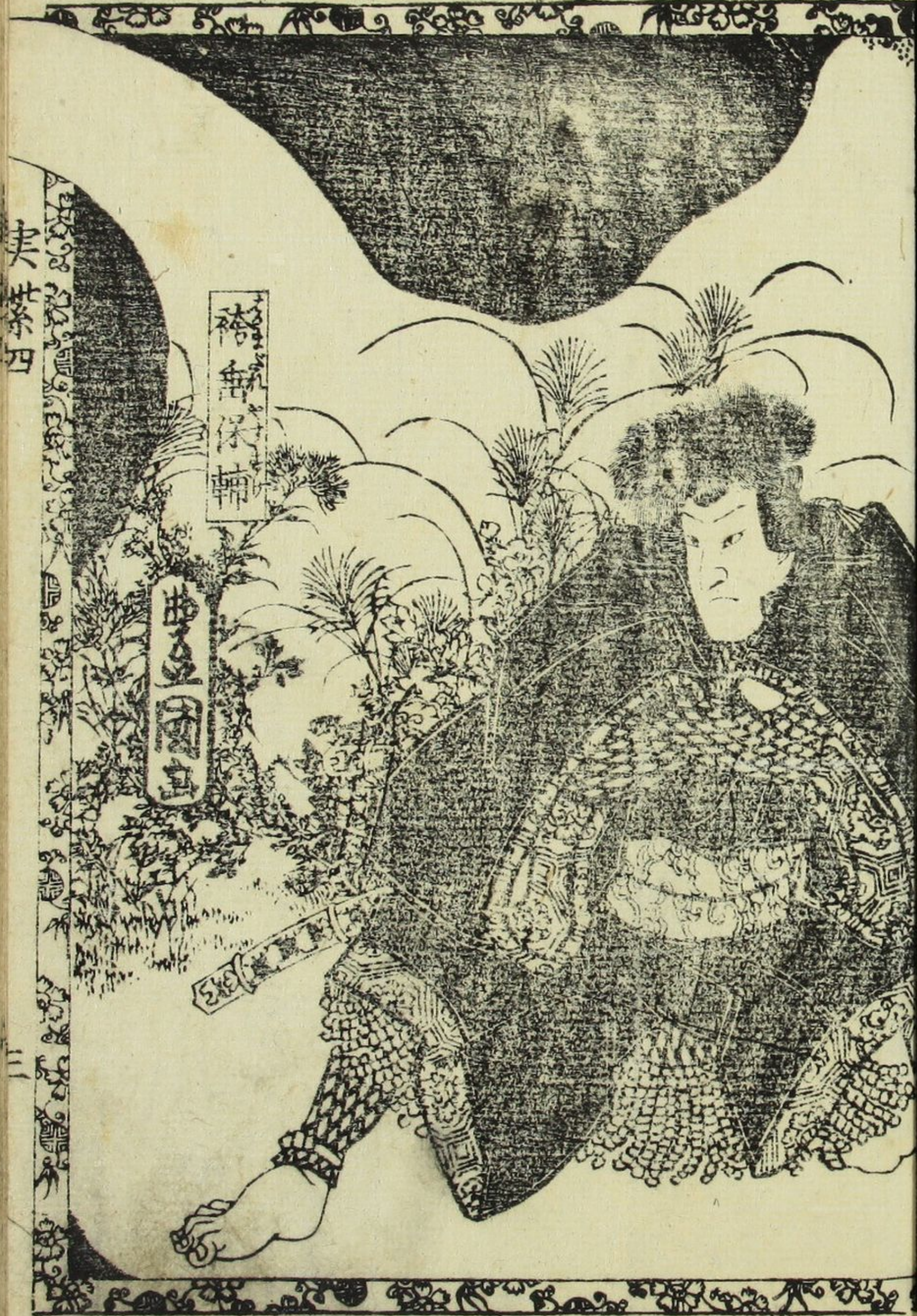
Handwritten text in a cursive script, located at the bottom of the left page.



源頼光
げんらいこう
 撰津守
せんつしゅ

葛城山魔女
かつらぎのまじ
 土蜘蛛
どぐも

御立廻



楠木保輔

美世四



和泉守藤原保昌



仙果作國貞画

十送金 一丸作
消智道中膝栗毛

柳水亭種清作

不思議塚小説櫻

同
風俗淺間ヶ嶽

関太郎 鈴ヶ譚

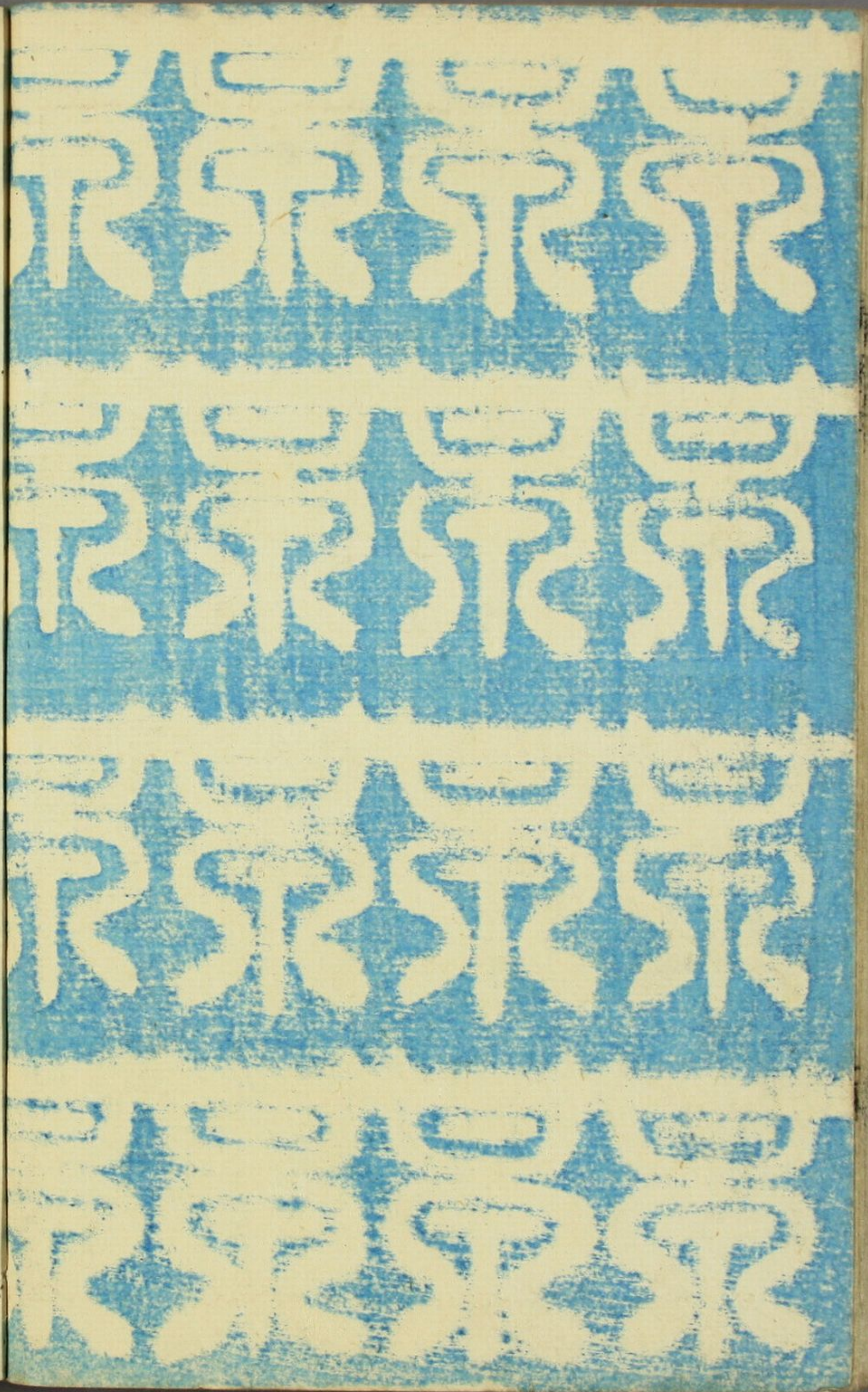
五篇大尾

柳水亭着六作
豊時田秋澁新雁

柳水亭種清作

同
猛田姉妹新白石

東橋区銀座四丁目三番地
出展人 山中喜太郎



曲亭馬琴作

新編金瓶梅全輯

十篇大尾

為永春水作

黃金水大盡盃

柳亭種彥作

琴聲義人錄

笠亭仙果作

根源實紫

柳煙亭種久作

一休草紙

同

小女郎如怨芋環

三篇大尾

柳下亭種員作

兒雷也豪傑譚

假名

反古

八册之内

林惠萍